

History of Kurume

激動の時 久留米の古墳時代



海外渡航のコーディネーター 水沼君（みぬまのきみ）一族

古墳時代の久留米の地には水沼君という豪族がいた。水沼君は航海の神である宗像三女神を祀っていたことから、航海に長けた一族であったと見られている。ある時水沼君は、中国から雄略天皇への献上される予定のガチョウを失ってしまった。なんと水沼君が飼っていた犬がガチョウを喰ってしまったのだ。恐れた水沼君は、すかさず鳥を扱う



▲上写真：水沼君一族の墓地とされる御塚・権現塚古墳（大善寺町）

▲下写真：権現塚古墳の濠から出土したと伝わる朝鮮半島の新羅国の土器

職人と雁10羽を献上し、事なきを得た。この逸話は当時久留米が中国南朝からの寄港地であったことや、鳥の飼育に特化した地域であったことを示している。南朝出身で機織りの技術を持った女性を表す「呉女（くれめ）」という言葉がくるめの語源になったという説も、古くから存在している。（『久留米市史』）



▲石人（久留米市教育委員会蔵）

筑紫君の本拠地八女地方を中心に分布する。

仲良しだった筑紫君

筑後川の支流の広川下流域を拠点とする水沼君は、広川中流域の大豪族筑紫君（つくしのきみ）と水運や水利を介して密接な関係にあった。筑紫君磐井（いわい）が新羅国と結んで大和王権に反旗を翻すと、水沼君も行動を共にし、最後には「三井の地」久留米で敗北した。

お問い合わせ

久留米市 市民文化部 文化財保護課
TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714
Email:bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp

History of Kurume



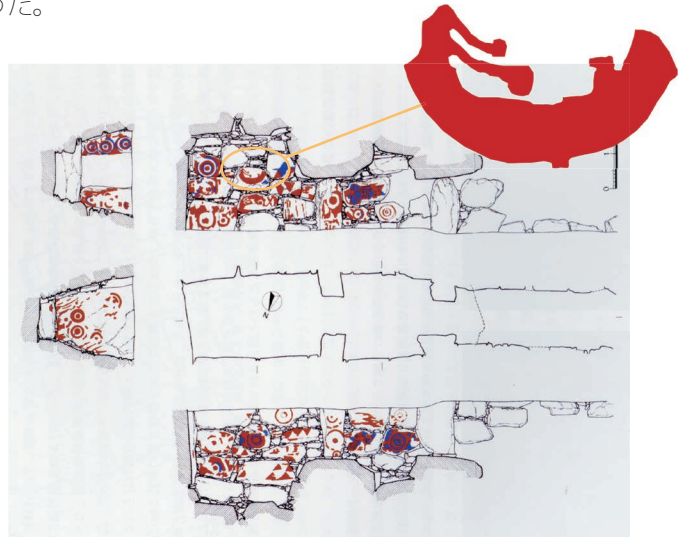
▲下写真：高良山のふもと、隈山古墳群から出土した銀製のくちなし玉。大和王権による朝鮮半島への干渉と関係があるのだろうか。



▲上写真：磐井の乱後の九州で最大の前方後円墳である田主丸大塚古墳。被葬者は未だ不明だが、九州に大和王権の勢力が伸長してくるということと関係がありそうだ。

久留米のニューリーダー 物部氏、高良山を占拠する

磐井の乱最後の戦いの地にそびえたつ要害の山、高良山。その神職である大祝（おおほうり）家は物部氏を祖とする。磐井征討の総大将であった物部麿鹿火（もののべのあらかひ）は、乱後の九州統治を任されていた。高良山を抑えた物部氏は、神職や地方役人として、のちの御井郡（現久留米市）の政治を行っていく。筑紫平野の各地に物部氏に関する地名や人名が残ることはその証である。



▲磐井の乱後には、肥後地方から装飾古墳の文化が筑前・筑後地方に広がった。肥後地方の豪族火君（ひのきみ）が乱後の九州西岸の物流を担ったことがその原因と考えられている。上の図面は下馬場古墳に描かれた装飾文様。右上は拡大した船の絵。被葬者は磐井の乱後の朝鮮出兵で海を渡った氏族だろうか。

お問い合わせ

久留米市 市民文化部 文化財保護課
TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714
Email:bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp